

結果的に父と同じ道に進んだのは 父の姿が格好良く見えていたからかも



長住2丁目にある「ふくだ内科 循環器・糖尿病内科」の院長に昨年就任した福田佑介さん(39)と、同院の理事長で、父親でもある福田圭介さん(72)に、親子として、ま

たは医療業界の先輩、後輩として、それぞれが尊敬しあい切磋琢磨する姿勢が見えるお話を聞かせていただきました。(★まいんず)

★子どもの頃は医師である父親をどのように思っていましたか？

幼少時は、父が医師である実感があまりなかったようですが、小学校高学年になると、夜間呼ばれていなくなる父の背中を見て、大変な仕事だなと思った記憶があります。

★プライベートでの思い出は？

父は、子どもに対して優しいのですが、優柔不断な行動は徹底的に叱られました。小学校時代には、父とよく登山に行った記憶があります。四王寺山、宝満山、油山を始め、北アルプスにも何度か連れて行ってもらいました。山小屋での宿泊を含め、今も鮮明に記憶があります。

★医師になると決めたのはいつ頃ですか？

父と同じ仕事につこうとは実は思っておらず、結果としてそうなったとしか言えません。父からは何も言われませんでしたし、高校入学当初は尊敬する先生への憧れもあり政治・経済の道に進もうと思っていました。父より

学友の影響が強かったように思います。高校時代、友人らと再生医療など医療革新による未来を熱く語る中で、医師を志すようになりました。結果的に父と同じ道になっ

医療への情熱や姿勢は、とつくに親を超えた存在

★仕事を継げる気は最初からありましたか？

私は、開業前は大病院に約20年ほど勤務していたため、自分自身が多忙であり仕事を継がせるとか、医師になって欲しいという気持ちは希薄だったと思います。ただ私の叔父が「天花粉」を作った北海道大学教授小児科医で、その影響もあり、私の兄弟4人は内科医・小児科医・外科医・そして私と医師になりました。ふくだ内科開業後に(ずっと後ですが)息子が仕事を継いでくれたらとの気持ちになりました。

★特別な教育方針がありましたか？



「勉強をしない」と言っていたことは一度もないです。生きていること自体、毎日が勉強と思っっています。『自立した人間になって欲しい・魅力ある人間になって欲しい』それが願いだっただけかな。

★父親として、息子はどのくらい存在ですか？

親をこえて欲しい存在です。

たのは父の姿が格好良く見えていたからかもしれない。

★父とはどんな存在ですか？

仕事を始めて、父は父でなく医師としての先輩になりました。仕事での父は一貫して厳しいです。妥協を許さず、自宅でも遅くまで勉学に励む姿は本当に尊敬します。60歳過ぎてから本を出版したり、今も論文をしっかりと読んで医学を探究する姿は、医師として尊敬します。

★医院を継いだお気持ちには？

循環器・糖尿病疾患は日進月歩です。父の良い部分を引き継ぎ、生活習慣病で困っている方のお役に少しでも立てられるよう、日々精進あるのみです。

★父親にこれから望むことは？

元気で長生きしていただきたいです。昔のように山登りを勧めたところ、膝が悪いと断られました。好きなことをたくさんして人生を謳歌してほしいです。

現実にはとつくに親を超えた存在です。医療は日進月歩です。私以上に医療に情熱をもち、前向きな姿勢には感心します。初めは開業継承に納得してなかったと思いますが、現在は熱心に地域の患者さんに、より良い医療提供のため、毎日頑張っている姿には頭がさがります。

★父親として息子に望むことは？

私ができなかった子どもへのかかわり、家庭生活にも配慮して人生を悔いのないよう(仕事だけの人間でなく)頑張りたいと思います。

父の背中

父の日

第3日曜日

6/19(日)

お父さん

お忘れなく

